令和5年度　東京都立瑞穂農芸高等学校（全日制）学校経営報告

校長　大畑　哲也

今年度は新型コロナウイルス感染症の扱いが５月に変更され、一部を除いてコロナ禍前の学校経営に戻すことができた。体育祭や瑞高祭は従前の形式を参考に生徒や地域の実情に即した形式で実施した。日常の学習活動から大きな行事、また地域との連携に至るまで、全教職員による組織的な取組を推進してきた。今年度の結果を検証し、次年度へ反映させ学校全体で取り組んでいく。

１　今年度の取組と自己評価

（１）教育活動への取組と自己評価

各学科の教育活動

①大学科共通	（ア）	授業規律の確立に重点的に取り組み、教職員が共通認識をもって指導にあたるように努めた。学級担任と教科担当が連携することで、生徒一人一人の学習規律の確立について指導にあたった。
	（イ）	各教科は、教科主任を中心に「学力スタンダード」の活用と観点別学習評価の精査及び改善を通じて、生徒の基礎学力の定着と伸長を図るとともに、学力の向上に取り組んだ。
	（ウ）	基礎・基本の学力を確かなものにするため、１年次には中学校段階の再学習を実施した。特に、国語・数学・英語を中心に、小テストを繰り返し補習・補講等を実施した。また、全学年にわたり全教科で、高校の学習に遅れがちな生徒に対して、補習・補講・レポート提出などを実施した。さらに複数教科で校内寺子屋事業（学力向上）を考査前に活用するとともに、長期休業中に講習を実施した。
	（エ）	教職員は、学習指導力向上のために研究と修養に努め、授業力の質的向上に取り組んだ。そのために「教員相互の授業参観」を実施するとともに、研究授業や他校における指導教諭の授業参観を通して実力を高めた。また各教科担当者とデジタルサポーターとの連携を深め、ＩＣＴ機器の活用を充実させ、オンラインで活用できる教材開発を積極的に行った。
	（オ）	「英語」や「数学」での習熟度別授業、「体育」や「家庭」等の少人数制授業を有効に活用し、生徒の実態に即した授業を展開した。
	（カ）	特別な支援が必要な生徒について特別支援相談委員会や企画調整会議等で生徒情報を共有し、組織的に対応した。

農業科、家庭科の取組

②畜産科学科	（ア）学科における学習指導・生活指導・進路指導などの取組
	（学習指導）専門教科で丁寧なレポート添削を行い、文章力や表現力の向上につなげた。 （生活指導）すべての授業において、挨拶、遅刻、頭髪、身だしなみの指導を徹底した。 （進路指導）進路指導部と連携し、学科の教員による面接指導と小論文・作文指導を丁寧に実施した。 （地域連携）多摩地区の酒造会社や飲食店のほか、都内の製麺業社との連携を図り、家畜の肥育から出荷の流れを体系的に学ぶ環境を整えた。また、本校で開発したレトルトカレーを瑞穂町のふるさと納税返礼品として提供した。地域の行事への参加を再開するとともに、多摩地区の小中学校での食育にも取り組み、地元企業・自治体との連携が充実した。 （特色化）地域の活性化や産業の発展に貢献できる課題研究の取組が実践できた。また高大連携を実質的に再開し、授業内容の充実と研究発表に取り組むことができた。
	（イ）目標達成のための実践結果
	（A）土日の管理について、生徒の１日の参加を再開し、生徒が飼育管理をとおして責任感や協調性を養うとともに、自己の役割を認識し、自信をもって活躍できる教育活動を実践することができた。 （B）公開講座、施設公開、学校間協力、地域行事等を再開するとともに、ＳＮＳや学校ホームページを通じて積極的に動物等の成長を発信した。 （C）基礎的な知識・技術を確実に習得させた上で、農業クラブ活動を実践し、専門教育の理解を深めた。農業クラブ活動では意見発表において東京都最優秀賞、関東大会優秀賞を受賞した。 （D）在学中に日本農業技術検定を全員受験させ、今年度は３級 29 名、２級 14 名のほか、１級にも１名が合格した。さらに家畜商講習を４名修了、小型車両系建設機械講習は 19 名が修了した。
（ウ）園芸科学科	（ア）学科における学習指導・生活指導・進路指導などの取組
	（学習指導）野帳と手書きのレポートに加えて Teams を併用して学習意欲を維持しつつ、授業・レポートの指導等をとおして基礎学力の定着を図った。 （生活指導）すべての授業で、挨拶、遅刻、頭髪、身だしなみの指導を徹底した。また、食料や生活を育む植物を扱う者として自他の生命を尊重し、自然に感謝と愛する豊かな心の育成につなげることができた。 （進路指導）専門教育やインターンシップを通して、自己の在り方や生き方を考えさせ、望ましい勤労観と職業観を育てた。また、学科の教員による面接指導及び小論文指導を行い、組織的な進路指導を実施した。 （地域連携）地域企業と連携の取組として、酒造会社や観光牧場に生産物を提供し、企業からは廃棄物の提供を受け、循環型農業に取り組んだ。植物の栽培から加工までの流れを体系的に学ぶことができた。 （特色化）ＧＡＰ教育の推進に努め、メロンに加えてブルーベリーでの認証取得に向けた取組を開始した。 （資格取得）資格取得やインターンシップを勧め、農業関連分野への意欲・関心を高めた。また、進路指導部や学年と連携して３年生の進路活動を支援した。
	（イ）目標達成のための実践結果

	（A）基礎学力向上を目標として、各科目で文章表現と計算を意識的に取り入れた。また、実験や実習を重んじ、科学的な思考や倫理観を高めた。特にレポート採点指導を強化することにより、論理的な文章が書けるように指導を行った。 （B）座学や実習等を通して、自然と人間生活の関わりを深く理解する機会を積極的に設けるとともに、ＧＡＰに関する指導を強化することで、農場及び実験・実習施設の清掃指導を徹底し、清潔で安らぎのある学習環境と生活環境を整えた。 （C）８～10 月に造園・農業分野のインターンシップに 14 名が参加した。３年生の進路指導は科内で分担して個別に面接・論文指導を実施した。学科の特色を生かした「箱根ヶ崎駅花壇の装飾」や地域行事への参加をとおして、奉仕の心の育成と社会に尽くす態度を育むことができた。 （D）３年「野菜」で栽培した水耕メロンをＧＡＰ教育の題材として取り組み、生徒の理解が深まった。 （E）日本農業技術検定は３級 27 名、２級３名が合格、刈払機講習 13 名、小型車両建機講習 12 名が修了した。
（エ）食品科	**（ア）学科における学習指導・生活指導・進路指導などの取組**
	（学習指導）座学では意義や役割と理論を学び、実習では総合的な体験及び検証を行い、食品に関する基礎的・基本的知識と技術を習得の向上につなげた。畜産科学科の生乳や豚枝肉を利用した牛乳製造実習やソーセージ製造実習を実施した。 （生活指導）豊かな人間性育成のため、実験実習を通して基本的な生活習慣の確立を図った。また、すべての授業において、挨拶、遅刻、頭髪、身だしなみの指導を徹底した。 （進路指導）学科の教員による面接指導、小論文指導を丁寧に行い組織的な進路指導を実施した。 （地域連携）地域の行事への参加を再開し、「ジャム」・「七色とうがらし」・「クッキー」を販売した。七味唐辛子は瑞穂町のふるさと納税返礼品として提供もした。 （特色化）　多岐にわたる製造項目を実習授業において学習し、専門性を生かした地域の特産品の開発に取り組み、専門教育の向上と充実を図った。 （資格取得）食品衛生責任者 35 名、アグリマイスターゴールド１名。日本農業技術検定合格者は３級 14 名と振るわなかった。将来役に立つ食品に関する資格取得を目的とした授業をカリキュラムに取り入れ、受験者の８割以上が合格できるよう指導を行う。
	（イ）目標達成のための実践結果
	（A）実験実習を通して専門的知識と先端技術への理解を深めさせた。学習では常に記録と整理を行い、活用する習慣を身に付けさせた。また、レポート等の提出期限を守るよう指導の徹底を図った。 （B）実験・実習の授業をとおして、安全に配慮し、協力と責任を重んずる態度とそれを実践する力を養った。また、生活規律の指導として欠席、遅刻、早退、忘れ物等の指導を徹底した。特に食品衛生に留意し、服装、頭髪、化粧、爪、装飾品、手洗いなどの管理を徹底した。 （C）特別専門講師による和菓子及び高度な洋菓子製造実習のほか、ものづくりマイスターによる製パン実習を実施し、食品のスペシャリストとしての職業観を養うことができた。 （D）地域を対象とした公開講座を実施した。
（オ）生活デザイン科	**（ア）学科における学習指導・生活指導・進路指導などの取組**
	（学習指導）生活に関する基礎的な知識・技術を実験・講義・実習を通して幅広く身に付けさせた。進路実現に必要な学力を育成する。 （生活指導）すべての授業において、挨拶、遅刻、頭髪、身だしなみの指導を徹底した。点呼の際には持ち物、服装点検等を徹底した。その取り組みにより、社会ルールやモラルについて理解を深めるとともに、他者への思いやりの気持ちを育んだ。 （進路指導）科目「生活産業基礎」におけるキャリア教育のほか、学科の教員による面接指導と小論文指導を丁寧に行い、組織的な進路指導を実施した。 （地域連携）保育園実習と近隣資料館見学のほか、有志による地域でのボランティア活動を再開し、地元との連携を充実させるとともに、生徒の勤労観を育んだ。 （特色化）　ＳＤＧｓ教育の一環として 17 項目の内容を学び、 （資格取得）将来役に立つ家庭生活や福祉に関する資格取得を目的とした授業を、カリキュラムに取り入れ指導を行った。
	（イ）目標達成のための実践結果
	（A）放課後の補習や長期休業中の実習等・反復指導を行い、生徒一人一人の学習状況に対応した指導を実施して生徒の学力向上と基本的な技術の定着を図った。 （B）実習室の整理、清掃を徹底し、学習環境の整備を行った。 （C）積極的に実験･実習に取り組ませ、実習後のレポート提出や発表を行うことにより表現力を身に付けさせた。 （D）規範意識の向上として、挨拶の励行、高校生として相応しい身だしなみ指導を徹底した。また、その場に応じた言葉づかいができるように日頃から指導を繰り返した。 （E）進学希望者（推薦やＡＯ入試）に対する面接対策指導、作文・論文対策指導などを組織的に実施した。 （F）実施可能な各種検定に挑戦させるための指導を行った。 ・家庭科技術検定３級：被服 21 名、食物 20 名、保育 21 名、２級は保育３名が合格。 ・ビジネス文書実務検定：３級 52 名、２級１名が合格。 ・保育福祉類型選択者３学年は、手話検定４級は 20 名が合格した。 （G）赤い羽根共同募金や地元自治体と連携したボランティア活動に取り組ませた。

２　今年度の取組について

（１）教育活動の具体的内容と結果

①学習指導	（ア）学力・技能スタンダード	
	学力	学力向上は、学校全体の取り組みとして、「学力スタンダード」に基づき、各教科にて実施した。５教科の学力スタンダード実施科目では自校作成問題で実施した。目標最低点に達しない生徒に対しては、補習や補講、課題を与え個別指導で対応した。
	技能	農業・家庭の専門教科については、「技能スタンダード」に基づき学科を中心に各教科の中で、知識・技能の習得を図り、資格取得に力を入れた。
	改善	生徒による授業評価アンケートを２回実施し、その結果を生かして、分かりやすい授業をするための工夫行うなど、各学科間において学力及び専門科目に関する知識や技術の向上に向けた検討を行った。
	（イ）アクティブラーニング	
	アクティブラーニングを推進し、『対話的学びを通じて「わかる」から「できる」』授業を目指して取り組んだ。全教員でアクティブラーニング型の授業を実践した。	
	（ウ）言語能力の充実	
	今年度も言語能力の充実に向け、各教科で授業を通じて取り組んだ。また、コンクール出品等を機会として継続して取り組み、東京都産業教育振興会作文コンクール、瑞穂町青少年の主張、図書館を使った調べる学習コンクール等で複数名が入賞した。	
	専門科目においても意見発表会や課題研究発表会等を通じて、他者に分かりやすいプレゼンテーションの作り方と発表方法について、身に付けさせることができた。また学習成果発表会は会場の都合で実施できなかった。	
	（エ）基礎学力の充実	
	夏季休業中には、国語・社会・数学・理科・英語・農業（６教科11講座）において特別講座を実施した。延べ61名の生徒が参加した。進路指導では、小論文指導を夏季休業中、放課後及び土曜日に15回実施した。	
	各専門学科では、実習レポートの記述部分できめ細かな指導とともに、定期考査においても文章記述問題を出題するなどの工夫を加え、学力向上に取り組んだ。	
	家庭学習の習慣を付ける取り組みは、学年及びクラスにより温度差がある。学校評価アンケートの結果、「自宅で予習・復習・宿題をしている」という項目で、「そう思う」と回答をした生徒の割合は、昨年度とほぼ変わらず、約30％であった。一昨年度よりは10％近く高いが、家庭に学習環境の整わない生徒もいることから、次年度も校内寺子屋事業を活用し、放課後の学習環境を整えることで学習習慣の定着を図る。	
	（オ）資格取得の奨励	
	漢字検定、英語検定、パソコン検定に加え、専門分野のＦＦＪ検定、農業技術検定、危険物取扱者、小型車両系建設機械、家畜商、手話検定、食物調理技術検定、被服製作技術検定、保育技術検定など、専門分野に関係する資格試験を学年別の全員受検・参加や希望者受検で行い、今年度は延べ650名（４年度522名、３年度439名）が合格した。	
	（カ）ＧＡＰ、ＨＡＣＣＰなどの認証制度への取組	
	専門教科ではオリンピック・パラリンピックのレガシーを踏まえて、ＧＡＰ、ＨＡＣＣＰなどの認証制度に関する教育を推進した。	
	（キ）授業外の学習（補習・講習、プロジェクト・家庭学習）	
	アグリマイスター顕彰制度や農業技術検定、家庭科技術検定などの資格取得を目指して、授業や放課後に指導を実施した。	
	（ク）ＳＤＧｓの視点を取り入れた授業の実施	
	各教科は、ＳＤＧｓ17項目持続可能な開発目標を選択して、各学期１回以上の授業を目標とした。次年度以降も継続して取り組み、その結果をホームページやＳＮＳ等で発信する。	
②生活指導	今年度は、遅刻と頭髪･服装指導、授業規律を重点指導項目として取り組み、全教員の共通理解の下、年間を通して継続的に行い、好転したケースと改善の見られないケースがあった。また登下校のマナーや身だしなみなど、今後も取り組むべき課題がある。	
	（ア）頭髪指導	
	頭髪については、大多数の生徒が守ることができている。休業期間中に、若干の生徒が染髪をしてしまう現状がある。学年、学科、生活指導部と連携して改善指導をしているが、黒染めが落ちるたびに指導することから一定期間の指導を要している。また、学年進行ごとに染色する生徒が多くなる傾向がある。	
	（イ）遅刻指導	
	月５回の遅刻を基準とした生活指導部による集団指導と学年を中心とした個別指導により、遅刻指導を徹底した。今年度の傾向は、生活リズムを崩れや心身の不調を抱えるなどの事情も見受けられた。中でも３学年の遅刻指導対象の生徒が多いことや毎月指導の対象になること生徒がいること、長期にわたり指導を継続する生徒や生活習慣の改善が見られず複数回指導を行った。また朝の登校指導と合わせて生徒も教職員も挨拶をしっかり行うことを通じて明るい学校づくりに努めた。	
	（ウ）服装指導	
	毎学期ごとに服装指導を行ってきたが、注意されたその場ではスカート丈を伸ばしたり、ブレザーを着たりと直すが、すぐに元どおりにしてしまうことが多い。特にスカート丈については授業開始時にチェックするなど教員全員での取り組みに従い改善した。少しずつ改善されているが、授業が終わった途端、あるいは校門を出た途端元に	

	戻す生徒もおり継続的な指導を必要とする。防寒着の扱いについて、生徒の実情や教員の意見を取りまとめたながら、分かりやすい規定に変更した。また靴下の規定については生徒会を通じて生徒とも対話を重ね、次年度から改定する。
	（エ）授業規律
	改めて「授業心得」を各教室掲示し、受講姿勢・態度について明文化し指導に取り組み、違反者には特別指導を入れたことにより改善された。また、今年度も生活指導統一基準に基づき「チャイムと同時に授業開始」を徹底した。殆どの生徒は授業前に教科書等の準備を行い、チャイムスタートの定着が図られている。
	（オ）自他の生命・人権尊重の精神（他者を尊重し、思いやりの心を大切にする）に向けた指導
	薬物乱用防止教室やセーフティ教室を通して、自他の生命や人権を尊重する指導を推進し、年間３回の生活実態調査を実施した。いじめ対策として、年３回のアンケート調査を行い生徒把握に努めた。６月に１学年は、いじめ未然防止学習会を実施した。また、スクールカウンセラーを活用して早期発見に努め、生徒の悩みに対応することで、いじめ防止を図った。 安全教育、特に交通安全教育を充実させ、登下校時のマナーと自転車事故防止の徹底を図った。毎週火曜日にスクールカウンセラーを活用した特別支援相談委員会を活性化させ、特別支援教育の必要な生徒の情報を教員間で共有して指導に役立てた。また同委員会を活用し生徒の支援を充実させ、いじめ防止の取り組みや自殺防止対策に資する教育の推進を図った。
③進路指導	令和５年度の進路決定率は、99.4%であり卒業時の進路未定は生徒1名となった。就職希望の生徒40名の内、39名が縁故・公務員を含め内定した。進学実績は下記のとおりの結果となった。専門を生かした就職は53.6%。進学は58.6%と例年並みの実績で、本校の教育活動の成果が表れている。
	（ア）進学（大学、短大、専門学校）
	大学・短大進学者は令和４年度の44名から５年度は46名と微増、専門学校進学者は４年度53名から５年度65名と20%増加、大学校（４年度６名、５年度６名）を含めた進学者数は４年度121名(全卒業生の75.2%)、５年度117名(同70.1%)と減少した。 大学進学者の内訳は、農業系大学（４年度21名→５年度15名）、家庭系大学・短大(４年度９名→５年度９名)であり、大学短大進学者数減少の背景には農業系大学進学者数の減少の影響が大きい。主な農業系大学進学先は、帯広畜産大学（１名）、東京農業大学（７名）、日本獣医生命科学大学（６名）、北里大学（２名）、麻布大学（２名）、東海大学（１名）などである。主な家庭系大学短大は、東京家政学院大学、白梅学園大学、秋草短期大学、新渡戸文化短期大学などである。またその他の大学は、駿河台大学、拓殖大学等に、一般受験では国士舘大学、桜美林大学、日本獣医生命科学大学（看護学科）、東海大学等に合格した。これらは１年次からの意識付け、学年、進路部、学科が連携した指導と、校内寺子屋事業を生かした取り組みの成果といえる。今後は、大学進学希望者に対応した取り組みとして、基礎学力向上のための講習や資格取得、専門教科学習の充実と併せて、３年間を見通した進路プランに従って、キャリア教育の充実を図っていく必要がある。
	（イ）就職
	３年就職希望者に対しては、進路指導部が中心となって、面接、作文指導や礼節指導等を実施。挨拶や敬語、きちんとした身だしなみの習慣は全校で指導に取り組んだ。また、夏季休業直前に労働局キャリア支援講座を受講させて就職準備を進めた。令和３年度まで減少していた就職希望者は４年度（29名、18%）に続いて増加し、５年度は40名、24%であった。このうち公務員は１名が合格した（都実習助手）。これは進学指導と同様の取り組みの成果である。今後も１年次より継続的に学習に取り組ませていく環境づくりが必要である。
	（ウ）３年間を見通した計画的なキャリア教育
	３年間を見通した進路指導のロードマップを活用し、微調整を図りながら進路指導を行った。また、あらゆる教育活動においてキャリア教育を推進し、自己の在り方生き方を考えさせ、望ましい勤労観・職業観を育み主体的な進路選択を行える生徒の育成に役立てた。今後も進路指導部と学年が連携を図り、すべての生徒の希望する進路の実現を目指す。
	（エ）その他
	５年度は志望が大きく変わる生徒が複数名おり、その対応に苦慮した。このような生徒も含めて希望を叶えることが重要であるが、受験指導、就職指導をより計画的に行うことと同時に、早期から保護者との連携を充実させることが重要である。今後も進路指導部を中心に学年や教科との連携を図り、昨年度より導入したスタディサプリを活用し、より組織的、具体的に進路実現を図れる環境を醸成する。
	（オ）点検機能の充実
	組織的な点検機能（学年⇒進路指導部⇒管理職）を充実させ、進路に関する関係書類等の転記ミスをゼロとすることができた。
④特別活動・部	**（ア）農業クラブ、家庭クラブの活動**
	農業クラブや家庭クラブの活動等への積極的な参加を通して、学習活動に意欲をもたせた。 農業クラブ活動においては、プロジェクト発表の分野Ⅰ類で東京都大会優秀賞、同Ⅱ類で東京都大会最優秀賞と関東大会優秀賞を、意見発表では東京都大会最優秀賞、関東大会優秀賞を、家畜審査競技会（肉牛の部）では東京都大会最優秀、全国大会優秀賞を、また農業鑑定競技（園芸）では全国大会優秀賞をそれぞれ受賞した。 家庭クラブでは、ボランティア活動を再開し、募金活動に協力した。
	（ウ）部活動の充実、競技力の向上

活動	生徒昇降口に部活動掲示板で、大会情報を積極的に伝えることにより、達成感と成就感の感じられる活動につなげた。その都度、ホームページやツイッターなどを活用して部活動の様子を掲載した。今後も情報発信に努め、募集倍率の回復につなげる必要がある。
	（エ）その他
	「図書館で調べる学習コンクール（高校生部門）」においては全国で奨励賞を収めた。来年度以降も積極的に取り組み、諸活動をさらに活発にしていく必要がある。
⑤募集・広報	**（ア）日常の情報発信：学校ホームページ、Ｘ（旧Twitter）、Youtube、Instagramの活用**
	募集活動は、夏季休業中に３回学校見学会を行い、９月以降は個別相談会を含め５回実施した。11月の立川高校を会場とした都立高校合同説明会に参加した。その他、YoutubeやInstagramでの動画の発信、ホームページとＸによる情報発信に努めた。学校ホームページの更新回数は349回、またＸの投稿は188回であったが、募集倍率に反映されず、次年度はより効果的な発信方法に改善する必要がある。
	（イ）学校パンフレットのリニューアル
	６月に、全学科・全項目の写真及び内容等を見直して完成させた。
	（ウ）美化活動、掲示活動を充実
	美化委員会を機能させ、放送による呼びかけ及びポスターによる環境意識の改善を図った。その結果、学習環境の整備や保全を心がけた美化活動を通して生徒の豊かな心を涵養した。
⑥健康促進	**（ア）感染症対策の継続**
	新型コロナウイルス感染症の扱いは５月から変更されたが、他の感染症と併せて一部の対策を継続した。サーモグラフィと消毒液の設置及び十分な換気を継続し、生徒が安心して登校できるように心がけた。
	（イ）合理的配慮の把握と支援方法の工夫
	特別支援相談委員会を通じて支援を必要とする生徒の情報を共有し、生徒が安心して学校生活を過ごせるよう毎週委員会を開催した。発達障害に係わる内容だけではなく、児童虐待やネグレクト等の疑われる生徒の対応を子供家庭支援センターや児童相談所と連携をした。また、保健部が中心となり校内研修を実施した。特に、指導上共通理解が必要な対応方法について、年度当初に全体に情報共有した後、特別支援相談委員会や企画調整会議等を通じて生徒の様子を学校全体として見守った。スクールカウンセラーを積極的に活用するとともに産婦人科医を中心に学校医と連携することで、多様な生徒の「心と体」の悩みに対して迅速に対応し、校内の教育相談体制を活性化した。
	（ウ）保健だよりからの情報発信
	スクールカウンセラーとの連携をより一層緊密にすることで、生徒へのきめ細かな対応を心がけた。さらに、「ほけんだより」を全生徒に概ね毎月配布し、健康推進に努めた。
	（エ）いじめの未然防止指導
	学校は、いじめや体罰を許さないというスタンスを徹底し、いじめアンケートを７月と12月、３月の３回実施した。項目の「ある」に〇を付けた生徒からは、担任や生活指導部及び管理職が丁寧に話を聞き対応した。また、必要応じていじめ対策委員会の準備を整えた。
	（オ）清掃用具等の整備、清掃指導、美化活動
	基本的に教室のごみ箱は設置せず、ごみを各自で持ち帰る指導を行った。清掃は快適な学習環境を維持するための意識づけとともに実施し、校内美化に留まらず、盗難防止や授業規律の維持・確率の指導と併せて指導した。
⑦学校経営	**（ア）ＯＪＴ・ＯｆｆＪＴ、自己研鑽、ＰＴＡ・同窓会との連携強化**
	学校は情報発信を積極的に行い、ＰＴＡや同窓会と緊密に連携することにより教育活動をより一層充実させた。また、学校運営連絡協議会が実施する学校評価アンケート及び生徒の授業評価アンケート、さらに保護者意見の結果から分析や検討を継続的に行い、意見や提言を真摯に受け止め学校経営に反映させた。
	（イ）経営企画室と教員の連携、計画的かつ効率的な予算執行、施設・設備の点検・共有化と整備・改修
	企画調整会議を基盤に据え、経営課題の解決と経営方針の徹底を図ることで迅速かつ組織的な対応力を高めた。また、各分掌はＰＤＣＡ一覧表を作成して、学校経営計画の実現を図るための進行管理に活用した。
	（ウ）新教育課程の完成に向けて
	教育課程委員会で議論を重ね、グランドデザインに対応した新教育課程の完成にむけて、主に観点別学習評価の在り方を中心に改善を図った。
	（エ）計画・継続的研修、教職員のコンプライアンス意識の醸成、組織的点検の実施
	月初めのクリーンデスクに努め、保有個人情報の管理徹底を図った。そのために、机の施錠と使用する施設などの施錠を徹底した。また、個人情報を含む資料については、各担当者に確認を行ったうえで書類などを手渡した。
	入学者選抜業務については、採点基準を明確に定め、採点においては複数による複数回の点検を順守した。また、西部学校経営支援センターと緊密に連携に行い、情報を共有化して学校経営の適正化と効率化を推進し、経営基盤を強化した。服務事故０を目指し、研修を３回実施するとともに教職員一人一人は意識向上に努めた。
⑧地	**（ア）地域貢献の充実**
	教科「人間と社会」や各学科の専門科目を通して、地域貢献活動を実践した。

域貢献活動	【実施できた取組】　：瑞穂町〔防災訓練、青少年の主張、村山大島紬伝承活動、産業まつり、子どもフェスティバル、駅伝、赤い羽根共同募金、図書館活動〕、保育園実習、JR箱根ヶ崎駅の草花装飾、野山北・六道山公園の環境保全 【実施できなかった取組】：高齢者施設実習、移動動物園
	（イ）コンクールへの取組
	教科に関連した各種競技会やコンクール等への参加を推進し、達成感・成就感を与え、学習意欲を高めさせた。
	❶東京都産業教育振興会作文コンクール　佳作４名 ❷日本学校農業クラブ連盟 ・プロジェクト発表関東大会　優秀賞　園芸科学科プロジェクトチーム ・プロジェクト発表東京都大会　最優秀賞　園芸科学科プロジェクトチーム 優秀賞　畜産科学科プロジェクトチーム ・意見発表関東大会　優秀賞　畜産科学科生徒　１名 ・意見発表東京都大会　最優秀賞　畜産科学科生徒　１名 ・フラワーアレンジメントコンテスト　優秀賞　園芸科学科生徒　２名 ❸瑞穂町青少年の主張　最優秀賞１名、佳作７名 ❹瑞穂町図書館で調べる学習コンクール（高校生部門）　最優秀賞１名　佳作１名 ❺図書館で調べる学習コンクール全国大会（高校生部門）　奨励賞１名 ❻公益社団法人国際農業者交流協会主催「畜産ティーン育成プロジェクト」オーストラリアにて各種研修に参加 ❼東京都教育委員会主催　専門高校生徒海外派遣研修　ニュージーランドで各種研修に参加

（２）数値目標と結果

①過去５年間の数値結果

項目		目標内容	Ｒ１	Ｒ２	Ｒ３	Ｒ４	Ｒ５
学習活動	ア	生徒の授業満足度を向上する	71.8%	83.0%	90.6%	90.6%	86.5%
	イ	原級留置者を各学年ともに低減維持する	0.2%	0.0%	0.2%	0.2%	0.2%
	ウ	各種資格・検定合格者	672 名	455 名	522 名	522 名	650 名
生活指導	エ	１日１クラスあたりの遅刻者数	0.71 人	0.40 人	0.06 人	0.06 人	1.25 人
	オ	年間の遅刻 30 回以上の生徒の減少	7 人	4 人	10 人	10 人	34 人
	カ	中途退学率を低減維持する	0.76%	0.38%	0.96%	0%	0.2%
進路指導	ケ	生徒の進路指導満足度	67.9%	75%	85.5%	85.5%	86.0%
	コ	卒業時の進路未決定者の低減を図る アルバイト・進学準備・その他	6.8%	4%	5.9%	5.9%	0.6%
原級留置者数	サ	原級留置者数	1	0	1	1	1
中途退学者数	シ	中途退学者数	4	2	5	0	1
募集活動	ス	生徒・教員による中学校・塾等訪問数	170 校	0 校	0 校	267 校	105 校
	セ	学校説明会、体験入学の参加者数 （生徒数）	867 人	496 人	645 人	793 人	1040 人
	ソ	ホームページの訪問件数（件） ツイッターのツイート数（件）	94,712	178,553 227	60,597 226	60,597 226	355,214 188
	ナ	各学科の第一次募集平均倍率	1.05 倍	1.3 倍	0.86 倍	1.02 倍	0.83 倍

②卒業生の進路状況

区分		Ｒ１年度			Ｒ２年度			Ｒ３年度			Ｒ４年度			Ｒ５年度		
		男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
進学	大　学	10	24	34	14	29	43	13	41	54	10	32	42	12	22	34
	短　大	0	8	8	0	11	11	0	21	21	0	22	22	0	12	12
	専門学校	3	52	55	10	58	68	7	40	47	14	38	52	11	54	65
	大学校	6	3	9	2	4	6	3	2	5	5	1	6	4	2	6
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
就職	学校斡旋	11	27	38	8	19	27	11	14	25	10	16	26	11	26	37
	縁　故	2	2	4	2	3	5	0	1	1	1	1	2	1	1	2
	公務員	0	1	1	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	1	1
	自営・家事	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2	2	0	1	1
	アルバイト	1	0	1	0	6	6	0	2	0	0	4	4	0	0	0
未定	進学準備	3	3	6	1	1	2	0	0	0	0	2	2	1	1	2
	就職準備	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
	その他	2	2	4	0	3	3	0	9	9	0	0	0	1	3	4
	合　計	38	122	160	36	135	172	34	134	168	40	118	158	41	126	167

③入学選抜											
受検形態	学科	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6
推薦入試倍率	園芸科学科	1.6	1.8	1.4	3.2	3.1	1.8	2.90	1.2	1.1	1.4
	畜産科学科	3.7	4.8	3.0	4.0	3.7	3.5	4.00	4.3	3.7	2.1
	食品科	2.7	2.5	1.8	3.1	2.4	2.0	2.80	2.2	1.7	1.9
	生活デザイン科	3.0	2.1	2.50	2.57	2.43	2.24	2.14	1.47	2.24	1.48
学力選抜倍率	園芸科学科	1.00	1.04	0.72	1.48	1.32	0.96	1.28	0.53	0.8	0.92
	畜産科学科	1.44	2.04	1.16	1.88	1.68	1.32	1.48	1.88	1.6	0.96
	食品科	1.36	0.96	1.08	1.36	1.20	0.96	1.29	0.84	0.68	0.92
	生活デザイン科	1.33	1.04	1.39	1.16	0.98	1.02	1.00	0.53	1.02	0.67

３　次年度以降への課題と対応策			
	重点項目	成果と課題	改善策
（1）	本校最大の使命 生活規律	【成果】学習指導での基礎・基本の定着と、中途退学者の減少の基盤となるきめ細かな生活指導の充実を図った。 【課題】基本的生活習慣と学習習慣の確立。通信機器の活用方法の確立。組織的・段階的な遅刻指導。	①教員巡回、昇降口立ち番の継続。 ②段階的な遅刻指導の実施。 ③生活指導部を中心に学校全体での身だしなみ指導の徹底。 ④自転車安全指導の充実。 ⑤組織的な校内外巡回の実施 ⑥チャイム着席と授業規律の徹底。 ⑦校内寺子屋事業の活性化 ⑧特別支援委員会とカウンセリングの充実
（2）	基礎学力の向上	【成果】各教科で教科会や教科主任会議を中心とした基礎学力向上の取組を実施するとともに、校内寺子屋事業を活用し、学習習慣の定着が進んだ。 【課題】各教科統一の授業規律指導の徹底。学習習慣の確立（家庭学習時間の確保）。	①各教科は、生徒実態調査の分析により、家庭学習時間確保に向けた課題を工夫する。また、学年や分掌での中途退学者の抑止を、今後とも組織的に体制を整え継続して実現する。 ②小テストや宿題を定着させ、評価に加える。 ③教務部を中心に主要３教科の教科主任と共に校内寺子屋事業の活用を促進する。
（3）	指定校等の取組	【成果】学力向上推進校（校内寺子屋事業）として、教務部は外部講師による教科指導を実施した。各定期考査の２週間前から実施し、40回の参加人数は56名、延べ人数280名であった。 【課題】事前・事後指導の工夫と改善。予算面の管理。指定校への申請。	①学力向上推進校では、到達度テストを参考に国語・数学・英語の教科主任との教科会を開き、学力向上に向けた情報共有と校内体制の構築を図る。 ②校内寺子屋を活用すべき生徒の成績について、教務部が中心となり分析に努める。 ③外部人材の活用が不可能な場合、学習習慣定着のため環境整備が課題であり、校内組織を整えて、生徒の基礎学力向上のために取り組める体制をとることを検討中である。
（4）	進路指導の充実	【成果】３年間を見通した進路指導のロードマップに基づき、計画的な進路指導を取り組むことができた。 【課題】出口指導の強化が必要である。次年度は計画的かつ早期からの面接指導の在り方を実施する。キャリア教育の情報を保護者へ効果的に展開させる必要がある。	①前倒しの面接指導（４月から実施）、小論文指導（国語科との連携）。 ②月間進路だよりの発行（teamsでの周知）。 ③キャリア教育の情報の保護者への効果的な周知（東京都版classiの活用）。 ④学力向上（校内寺子屋等）の対応と分析。 ⑤卒業生の追跡調査（学校ホームページへのコメント依頼等）。 ⑥全学年会への参加（ホームルール年間指導計画の運営連携）。 ⑦推薦を活用する生徒の指導と保護者理解。
（5）	防災教育の充実	【成果】様々な災害を想定して避難訓練を実施し、避難経路の確認と防災意識の向上が図られた。 【課題】自然災害への危機意識の醸成に向けた訓練の在り方について工夫する。地域（役場・消防団）、消防署、自衛隊との連携の充実。	①防災教育のさらなる充実を図り、地域連携の強化と避難所を想定した生徒主体の訓練を行うなど、地域の特性を生かしながら本校独自の取組を実践する。

（６）	安心できる安全な学校	【成果】学年主任の参加する特別支援委員会を毎週実施するとともに、職員の朝会にて生徒の情報共有を図った。教職員は、体罰の根絶を目指した研修会等を各学期実施した。 【課題】情報共有の活用と連携。いじめや暴力のない学校づくりとしての未然防止教育。保護者との情報共有。	①企画調整会議、特別支援相談委員会等を活用し、積極的な情報共有を継続する。各学期に体罰の根絶を目指した研修会等を実施する。 ②いじめ防止対策委員会を機能させ、いじめアンケートや特別支援相談委員会への生徒情報を基に、いじめのない学校づくりを推進する。
（７）	専門分野の知識技術等向上	【成果】技能スタンダードの取組を通して、身に付けるべき専門分野に関する技術・技能内容をさらに明確にし、組織的な取組を継続している。農業技術検定に１級１名、２級17名、３級70名が合格した。 【課題】各種検定に向けた知識技術の向上。指導内容・方法の改善。	①授業では、生徒が技術・技能面での到達度について確認する。到達していない場合は、繰り返し指導する。 ②次年度も「農業技術検定」を受験予定。
（８）	部活動加入率の向上	【成果】部活動加入率を向上させるために、４月に部活動紹介を実施した。部活動掲示板を生徒昇降口付近に新設した。Ｘ、ホームページなどからの情報発信を増やした。 【課題】部活動加入継続と加入率向上、部活動の情報発信。決められた活動日及び活動時間の徹底。	①１年のオリエンテーションで部活動紹介を行う。 ②部活動掲示板を継続的に更新する。 ③生徒掲示板の活用とホームページ、Ｘ、Teamsなどからの情報発信をさらに充実させる。 ④部活動月間活動報告の在り方を見直す。
（９）	特別支援教育の充実	【成果】毎週の特別支援相談委員会にて生徒の情報共有を図り、スクールカウンセラーや生活指導部と連携して全生徒にきめ細やかに対応するとともに、保護者への情報共有を充実させた。 【課題】教員校内研修と中学校との連携。	①各教科からの情報共有と年度当初に得た情報を集約し、全教員で共有する。 ②必要に応じて「学校生活支援シート」を作成し生徒指導に役立てる。
(10)	人材育成	【成果】①校内ＯＪＴを継続し、生徒理解、授業改善等についての協議会を実施。 ②校内研修に全ての分掌主任が参画するように改善。 【課題】実施時期の工夫。学校の諸課題をテーマに主幹教諭及び主任教諭を中心としたグループによる人材育成。	①ＯＪＴの実施体制については、これまでの反省をもとに、今後も実践的かつ実効的な内容に改善し、全主幹教諭・主任教諭が取り組む体制づくりを継続する。 ②教員相互の授業参観の継続。 ③選考に向けた校内研修の実施。
(11)	募集活動の活性化	【成果】公開講座、中学校での説明会等を再開した。 【課題】①学校ホームページ、Ｘ、Instagram等の活用方法を改善する。 ②校内外の説明会への対応を全教職員で取り組む。	①中学校訪問時期の改善と訪問数の設定を行い実施する（３校を目標とする）。各科の説明を丁寧に行う。 ②個々の活動をホームページに掲載して情報発信に努める。 ③中学校教員を対象とした説明会を開始する。 ④学習塾への訪問や情報提供を行う。